

平成28年度補正予算による緊急無償資金協力「食料生産に資する資産形成プログラム」(WFP経由)の引渡式の実施

2017年9月13日、岩藤大使は、首都のハラレ市から約700キロメートル離れたマシngo州チレジ郡チピレ地区で、平成28年度補正予算による緊急無償資金協力「食料生産に資する資産形成プログラム」(WFP経由)の引渡式に出席しました。本食糧援助は、WFPジンバブエ事務所の協力によって行われ、ジンバブエで食糧難に陥る11,000名以上に対し、6ヵ月分の豆や主食のトウモロコシ粉、食用油を提供するものです。また、本援助では、食糧供給の他に、簡易ダム等、農業施設を地元住民が建設する機会も提供し、当国の人々が更なる貧困に陥らないような支援をしています。

当国では、2015年／2016年の農繁期に記録的な干ばつ被害に見舞われ、被災地域においては、作物生産の大幅な減少(前年比75%減)や多くの家畜の死亡が発生しており、甚大な食糧不足に陥っていました。更に、2016／2017年の農繁期はラニーニャの影響による洪水被害に見舞われ、被災地住民は、極めて深刻な貧困と栄養不足に陥り、人道的な観点からも、一刻も早い食糧支援と災害に強く持続性の高い農業施設の設置が求められていました。

岩藤大使は、引渡式の挨拶で当国で天災の被害に遭った皆さんをお見舞いし、日本も長年に亘り天災の被害に遭っており、当国で日本が継続して行っている食糧支援は、天災の被害者を理解する日本国民からの支援であると述べました。また、本支援は、飢餓からの自由、そして貧困からの自由を目指す人間の安全保障に合致するものであり、これを達成させるには、助け合いの精神が支えとなると述べました。最後に、ジンバブエのショナの文化にも日本の「助け合い」の文化と同様の「ウヌ(Unhu)」と呼ばれる文化があり、ぜひこの文化を高めてほしいと付け加えました。

